



# 釧新郷土芸術賞に輝く受賞者の横顔

■上■

財団法人・釧新教育芸術振興基金による平成十年度(第二十七回)の「釧新郷土芸術賞」が決まった。今年は油彩画から立体の世界に入り、金属造形で今日のテーマを追求している村岡克己氏、創立二十五周年を迎え地域の文化振興に活躍している釧路演劇集団(中山知征代表)、独学で創作活動を続け今年道展会友賞に輝いた長谷川雅章氏の三人が選ばれた。そこで、三人の業績などを紹介する。

のかと疑問が離れなかつたが、昭和六十三年の受賞で少し手応えを感じた」と言う。「いかに単純化するか、複雑にするか、もっと、ねじれた方がいいのか…。制作の上で本当に苦労するのは形です。物を作るだけなら、それほど難しさはないけれど、構成でいたい決まってしまうんです」。

展示中の「積み木の家」も、鉄の方形を積み上げて、現代の家庭が抱える不安を表現した。村岡さんは「前から続けている。家族」。今後もこれをテーマにして制作していきたい」と控え目に抱負を語る。

## 市の選抜展用 出品作制作へ

村岡さんはこれまでの自作について「具象より抽象の方が理解しにくい点があるものの、人によっていろいろ見れる面白さが抽象造形にはあると思う。これからも、やはり家族というものを作品のテーマにして努力したい」と作家の創造の源泉にも触れる。

# 「家族」を作品テーマに

## 創作活動に情熱を燃やす

身近な鉄に創作意欲向ける  
卒業後、家業の村岡金属板工業の仕事に励みながら、創作活動に情熱を傾けてきた。地元の釧路美

術協会員だった時代は、油彩画を描いていたが、毎日触れ合って身近な鉄という物に、創作意欲が向けられる。「やはり立

を果たした金属造形の記念すべき処女作は、鉄製ののでさびて朽ち果ててしまったという。昭和六十三年の全道展で奨励

今年、札幌で開催された「イサム・ノグチ展」に心を揺さぶられたという村岡さん。「生活に密着したスケールの大きさを感ずる。それに日本を意欲した血というもの」と声を弾ませる。

## 金属造形

# 村岡克己さん

(四八)

(釧路市浪花町8の3)

## 全道展で着実に 地歩切り開く

全道展に出品して入選  
めた当初は、これで良い

今年全道展には重さが六、七十キロという「レクタングル・ホーム」を出品した。

また九年度の釧路市美術作品買い上げに選ばれ、生涯学習センターに

これから市の選抜展用の出品作に取り掛からねばならない。昼間の仕事を終えて釧路町にある工場へ一人制作に取り組み。素材となる鉄は切断機でカットし、溶接で組